

2020年4月6日

各位

会社名 株式会社松屋アールアンドディ
代表者名 代表取締役社長 後藤 秀隆
(コード番号：7317 東証マザーズ)
問合せ先 取締役経理部長 松川 浩一
(TEL. 0779-66-2096)

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、2020年4月6日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）における当社グループの業績予想は、次のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【連結】

(単位：百万円・%)

項目	決算期	2020年3月期 (予想)			2020年3月期 第3四半期累計期間 (実績)		2019年3月期 (実績)	
		対売上高 比率	対前期 増減率		対売上高 比率		対売上高 比率	
売上高		8,140	100.0	8.3	6,451	100.0	7,517	100.0
営業利益		331	4.0	83.7	310	4.8	180	2.4
経常利益		293	3.6	31.0	297	4.6	223	3.0
親会社株主に帰属する 当期（四半期）純利益		188	2.3	65.7	240	3.7	113	1.5
1株当たり当期 (四半期)純利益		83円72銭			106円86銭		50円53銭	
1株当たり配当金		0円00銭			—		0円00銭	

- (注) 1. 1株当たり当期（四半期）純利益は期中平均発行済株式数により算出しております。
2. 2019年3月27日付で、株式1株につき1,000株の株式分割を行っております。上記では、2019年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期（四半期）純利益を算出しております。
3. 2020年3月期（予想）は2019年7月までの実績を踏まえて、2019年8月に予想したものとなります。なお、2020年2月に販売費及び一般管理費並びに営業外費用について翌期への期ズレが明らかとなった費用は、当期の費用から除いております。

【2020年3月期業績予想の前提条件】

(1) 全体の見通し

当社グループは、「Safety & Medical Healthcare を通して科学技術の向上を図り人類に貢献する。」との経営理念のもと、長年培ってきた縫製に関する開発力・技術力を基盤として、優れた品質の製品を安定供給することにより、顧客満足度の向上を図るとともに、取引先・協力会社・地域社会・投資家の皆様方と従業員からの信頼と期待に応えられる企業を目指しております。

当社グループは、自動縫製機の製造・販売を行う「縫製自動機事業」及び当該機械を用いた血圧計腕帯、カーシートカバー、エアバッグ等の縫製品の製造・販売を行う「縫製品事業」の2事業を主力事業として事業活動を行っており、大口顧客であるオムロングループ各社からの血圧計腕帯製品の縫製品事業に関する安定的な受注を確保しております。

我が国経済の先行きについては、企業収益や雇用状況の改善により、緩やかな回復基調となったものの、世界経済においては米中貿易摩擦の激化や、欧州の政治情勢等に起因する景気減速懸念により先行き不透明感が増しており、縫製自動機事業においては、製造業の設備投資費用が削減されることも予想されますが、当社グループを取り巻く縫製にまつわる業界においては、人手不足を背景に縫製機器の自動化への需要が高まっており、縫製自動機事業における主力のレーザー裁断機やエアバッグメーカー向けの縫製自動機の開発、販売を強化してまいります。また、縫製品事業においては、血圧計腕帯について健康志向の高まりを背景として安定的な生産量が見込まれております。カーシートカバーやエアバッグの属する自動車業界では上記の環境から今後の業界動向としては不透明な状況であるものの、当社グループでは海外での生産拠点を活用するほか、当社製の縫製自動機を工程に活用することによりコストを抑えることで、当社グループへの生産委託を促し、カーシートカバーやエアバッグの縫製品の生産拡大に繋げてまいります。

上記の経営環境の中、当社グループにおいては、縫製工程の自動化技術が日々進化していく中で、裁断から縫製までの工程を揃える最先端の技術と特許を生かした当社の自動機械装置は顧客の生産力向上に貢献できると考え、縫製業界における日本版 industry4.0 を行うリーディングカンパニーとして、持続的な成長を目指してまいります。

しかしながら、海外での事業活動における地政学リスクを踏まえ、当期の売上の期ズレの発生可能性等も考慮し、2020年3月期の業績予想は、売上高 8,140 百万円（前期比 8.3%増）、営業利益 331 百万円（前期比 83.7%増）、経常利益 293 百万円（前期比 31.0%増）、親会社株主に帰属する当期純利益 188 百万円（前期比 65.7%増）を見込んでおります。

(2) 売上高

縫製自動機事業においては、案件毎に過年度の実績を踏まえた販売価格に対し、受注確度を踏まえたリスクウェートを掛けた計画数値の積上げで策定しております。縫製自動機事業については、前期にメキシコ向けの自動縫製ライン等の大口売上の案件があったのに対して、当期は比較的大口案件が減少したことにより前期比では 23.4%減の計画と見込んでおります。

縫製品事業においては、血圧計腕帯、カーシートカバー、エアバッグ等の製品毎の取引先からの内示情報に基づき、数量と単価を乗じて策定しております。血圧計腕帯については、客先の在庫調整の影響等により、2,724 百万円（前期比 9.4%減）の計画と見込んでおります。カーシートカバーについては、中近東向けや北米向けの車種の受注が増加した影響により、3,042 百万円（前期比 8.9%増）の計画と見込んでおります。エアバッグについては、前期に増設した生産ラインが本格稼働したことにより、生産量が増加したため、1,392 百万円（前期比 195.4%増）の計画と見込んでおります。

以上の結果、縫製自動機事業の売上高としては、900 百万円（前期比 23.4%減）、縫製品事業の売上高としては、7,240 百万円（前期比 14.2%増）となり、2020 年度の全体の売上高は 8,140 百万円（前期比 8.3%増）を見込んでおります。

なお、2020 年 3 月期第 3 四半期累計期間における業績進捗につきましては、縫製自動機事業においては、欧州のエアバッグメーカー向けに大型の縫製自動機を納めたことなどから、538 百万円となっております。

縫製品事業においては、血圧計腕帯については、主に中国向けの機種が増加しており、2,457 百万円、カーシートカバーについては、中近東向けや北米向けの車種の受注が増加した影響により 2,397 百万円、エアバッグについては生産ラインの増設により 997 百万円となっており、縫製品事業全体としては 5,913 百万円となっております。

（3）営業利益

売上原価について、縫製自動機事業においては、売上高と同様、案件毎の積上げで策定しており、売上の減少に伴い 761 百万円（前期比 23.3%減）の計画と見込んでおります。

縫製品事業においては、過年度実績ベースと各取引先との間で合意した材料単価をふまえて策定しており、売上の増加以外に、主にカーシートカバーの海外拠点における縫製工の習熟度の向上により、6,235 百万円（前期比 12.0%増）の計画と見込んでおります。

販売費及び一般管理費については、当社における営業部門、製造部門及び管理部門の人員増による人件費 356 百万円（前期比 3.1%増）、運賃、支払手数料等について個社別に積み上げて策定しております。

以上の結果、販売費及び一般管理費は 810 百万円（前期比 4.1%増）、営業利益は 331 百万円（前期比 83.7%増）を見込んでおります。

なお、2020 年 3 月期第 3 四半期累計期間における業績進捗につきましては、売上原価については、縫製自動機事業において、前期より工程管理を見直し、外注費を抑えることができ、原価率が改善し、464 百万円となっております。縫製品事業においては、売上の増加以外に、主にカーシートカバーの海外拠点における縫製工の習熟度が向上したほか、工程の見直しなど効率化を図ったことで原価率が改善し、売上原価は 5,086 百万円となっております。

販売費及び一般管理費については、当社における営業部門及び管理部門の人員増に伴う人件費の増加を主要因として 590 百万円となっております。

（4）営業外損益、経常利益

営業外損益について受取利息や支払利息の他、上場関連費用 2 百万円を織込んでおります。

以上の結果、経常利益は 293 百万円（前期比 31.0%増）を見込んでおります。

なお、2020 年 3 月期第 3 四半期累計期間の経常利益は 297 百万円となっております。

（5）特別損益、親会社株主に帰属する当期純利益

特別損益に関しては 2019 年 4 月～7 月までの実績を反映している以外は特段織込んでおりません。また、法人税等については、各社の法定実効税率をもとに見込んでいるほか、連結子会社からの配当金に係る源泉税や繰延税金資産の変動などを考慮して見込んでおります。

以上の結果、親会社株主に帰属する当期純利益は 188 百万円（前期比 65.7%増）を見込んでおります。

なお、2020 年 3 月期第 3 四半期累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は 240 百万円となっております。

【業績予想に関するご留意事項】

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上

2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年4月6日

上場会社名	株式会社松屋アールアンドディ	上場取引所	東
コード番号	7317	URL	http://www.matsuyard.com/
代表者	(役職名)代表取締役社長	(氏名)後藤 秀隆	
問合せ先責任者	(役職名)取締役経理部長	(氏名)松川 浩一	(TEL) 0779(66)2096
四半期報告書提出予定日	—	配当支払開始予定日	—
四半期決算補足説明資料作成の有無	: 無		
四半期決算説明会開催の有無	: 無		

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	6,451	—	310	—	297	—	240	—
2019年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 228百万円(—%) 2019年3月期第3四半期 —百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	106.86	—
2019年3月期第3四半期	—	—

(注) 1. 2019年3月期第3四半期は四半期連結財務諸表を作成していないため、2019年3月期第3四半期の数値及び2020年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの当社株式は2020年3月期第3四半期においては非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	4,709	2,006	42.6
2019年3月期	4,091	1,777	43.5

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 2,006百万円 2019年3月期 1,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,140	8.3	331	83.7	293	31.0	188	65.7	83.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 〇社(社名) - 、除外 〇社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料 8 ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2020年3月期3Q	2,250,000株	2019年3月期	2,250,000株
2020年3月期3Q	一株	2019年3月期	一株
2020年3月期3Q	2,250,000株	2019年3月期3Q	一株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

(注) 2019年3月期第3四半期については四半期連結財務諸表を作成していないため、期中平均株式数 (四半期累計) を記載しておりません。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。又、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 3 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、輸出や生産が減少しており、企業収益は製造業を中心に弱含みで推移しております。また10月からの消費税増税に伴う個人消費の落ち込みも懸念されております。

このような環境の中、当社グループにおける経営成績は、縫製品事業を中心に順調に売上を伸ばしており、血圧計腕帯、カーシートカバー及びエアバッグについて、海外拠点を中心に受注が堅調に推移しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高6,451,801千円、営業利益310,726千円、経常利益297,897千円、親会社株主に帰属する四半期純利益240,430千円となりました。

尚、当第3四半期連結累計期間における各セグメントの概況は、次のとおりであります。

(縫製自動機事業)

縫製自動機事業につきましては、小規模な受注案件が中心となり、労務費及び経費等の固定費の負担が利益を圧迫した結果、売上高は538,483千円、セグメント損失は106,351千円となりました。

(縫製品事業)

縫製品事業につきましては、血圧計腕帯について健康志向の高まりを背景とした受注が堅調に推移したほか、カーシートカバーにおいては北米向けの車種を中心に生産量が増加し、エアバッグについても顧客からの生産移管が進み、生産量が大きく増加しました。以上の結果、売上高は5,913,318千円、セグメント利益は570,119千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて371,699千円増加し、3,800,299千円となりました。これは主として現金及び預金が29,504千円、受取手形及び売掛金が193,844千円、商品及び製品が19,815千円、仕掛品が131,471千円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて247,173千円増加し、909,675千円となりました。これは主として在外連結子会社においてIFRS第16号「リース」を適用した影響等により有形固定資産が228,927千円増加、投資その他の資産が20,020千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて618,873千円増加し、4,709,974千円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて163,827千円増加し、2,143,331千円となりました。これは主として支払手形及び買掛金が146,827千円減少したことに対して、短期借入金が111,352千円、賞与引当金が18,836千円増加したことに加え、その他で在外連結子会社においてIFRS第16号「リース」を適用したこと等によるリース債務が81,141千円、前受金が99,620千円増加したことによるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて226,101千円増加し、559,862千円となりました。これは主としてその他で在外連結子会社においてIFRS第16号「リース」を適用したこと等により、リース債務が221,714千円増加したことによるものであります。

この結果、当第3四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて389,929千円増加し、2,703,193千円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて228,943千円増加し、2,006,780千円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益240,430千円の計上による利益剰余金の増加及び為替換算調整勘定の減少11,486千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の43.5%から42.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想につきましては、本日開示いたしました「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該連結業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	565,380	594,885
受取手形及び売掛金	824,344	1,018,188
商品及び製品	492,791	512,607
仕掛品	398,157	529,628
原材料及び貯蔵品	983,889	970,047
その他	164,036	174,941
流動資産合計	3,428,599	3,800,299
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	272,110	232,383
機械装置及び運搬具（純額）	66,655	60,342
土地	100,530	99,336
使用権資産（純額）	—	334,204
その他（純額）	110,176	52,132
有形固定資産合計	549,471	778,399
無形固定資産		
その他（純額）	7,604	5,830
無形固定資産合計	7,604	5,830
投資その他の資産		
繰延税金資産	47,109	60,190
その他	58,316	65,255
投資その他の資産合計	105,425	125,446
固定資産合計	662,501	909,675
資産合計	4,091,101	4,709,974

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,009,205	862,378
短期借入金	714,774	826,127
1年内返済予定の長期借入金	73,862	62,304
未払法人税等	24,579	34,117
賞与引当金	23,389	42,225
受注損失引当金	12,342	20,943
その他	121,350	295,235
流動負債合計	1,979,504	2,143,331
固定負債		
長期借入金	118,798	130,378
退職給付に係る負債	102,512	108,806
資産除去債務	26,309	27,361
その他	86,140	293,315
固定負債合計	333,760	559,862
負債合計	2,313,264	2,703,193
純資産の部		
株主資本		
資本金	125,000	125,000
資本剰余金	17,351	17,351
利益剰余金	1,763,882	2,004,312
株主資本合計	1,906,233	2,146,664
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△128,397	△139,883
その他の包括利益累計額合計	△128,397	△139,883
純資産合計	1,777,836	2,006,780
負債純資産合計	4,091,101	4,709,974

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	6,451,801
売上原価	5,550,324
売上総利益	901,477
販売費及び一般管理費	590,751
営業利益	310,726
営業外収益	
受取利息	447
為替差益	17,838
その他	3,944
営業外収益合計	22,230
営業外費用	
支払利息	30,746
その他	4,312
営業外費用合計	35,059
経常利益	297,897
税金等調整前四半期純利益	297,897
法人税、住民税及び事業税	70,451
法人税等調整額	△12,984
法人税等合計	57,467
四半期純利益	240,430
親会社株主に帰属する四半期純利益	240,430

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	240,430
その他の包括利益	
為替換算調整勘定	△11,486
その他の包括利益合計	△11,486
四半期包括利益	228,943
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	228,943
非支配株主に係る四半期包括利益	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	
<p>在外連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号「リース」を適用しております。これにより、借り手は原則すべてのリースについて資産及び負債の認識をしております。</p> <p>当該会計基準の適用については、経過的な取扱いに従って、第1四半期連結会計期間の期首において、累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。</p> <p>この結果、当第3四半期連結会計期間末の使用権資産（純額）が334,204千円、その他流動負債に含めておりますリース債務が88,402千円、その他固定負債に含めておりますリース債務が228,354千円それぞれ増加し、利益剰余金が4,913千円減少しております。</p> <p>また、当第3四半期連結累計期間の営業利益が15,384千円増加し、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が4,913千円減少しております。</p> <p>尚、この変更による1株当たり情報に及ぼす影響は軽微であります。</p>	

(セグメント情報等)

当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	縫製自動機	縫製品	計		
売上高					
外部顧客への売上高	538,483	5,913,318	6,451,801	—	6,451,801
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,347	—	6,347	△6,347	—
計	544,831	5,913,318	6,458,149	△6,347	6,451,801
セグメント利益又は損失(△) (注)1. 2. 3	△106,351	570,119	463,768	△153,042	310,726

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△153,042千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用と、セグメント間取引消去額であります。会社費用は、主に当社の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間よりIFRS第16号を適用しております。この結果、縫製自動機のセグメント利益が45千円、縫製品のセグメント利益が15,339千円それぞれ増加しております。